

(四) 災害年表

災害は自然災害と人災とに分けることができ、自然災害の原因は、地質学的な地震及び土地崩壊と、気象的な暴風雨、落雷並びに干ばつ、虫害などに分けられる。

人災には、火災、盗難等があり、現代では各種の公害、交通災害が大きな比重を占めるようになった。ただし、自然災害といっても、その遠因については、人災と考えられないこともないことは、現代は明らかであるが、ここではふれない。

次に近世以来の山崩れ、暴風雨による家屋、作物への被害、洪水による家屋、田地、作物等への損害、干ばつによる被害を示した(災害は一町村のみ受けるのではなく、周辺の地域も影響を受けるので三好郡内を対象とした)。

出典は『徳島県災異誌』県史編さん委員会 昭和三七年刊。

第二期 明治二十一年市町村制公布から大正一〇年郡制廃止まで

至る、大風加わる。吉野川及馬路川並に数十大小溪流大洪水、殊に馬路川並に大小溪流の水源地及流域沿岸の各所の崩壊多近來見ざる大洪水にして、沿岸並に各種の被害慘又慘を極む、この損害一〇万円以上とする。人死亡四、行方不明一、負傷一、耕地地、流失埋没二〇町、浸水一〇町、その他流失埋没五〇

町、浸水三〇町、住家、流失二三棟、崩壊七、半潰二五、非住家、流失二〇棟、崩壊五、半潰二、浸水四四、山嶽崩壊七〇箇所、七〇〇坪、堤防決潰三五箇所、国道決潰埋没五五箇所一五〇〇間、その他の道路二二〇箇所五〇〇〇間、橋梁流失七〇〔馬路川洪患志〕